

加古川水系河川整備基本方針の変更について

・前回(第146回)の主な意見に対する補足事項

令和7年3月14日

国土交通省 水管理・国土保全局

<第146回小委員会における議論概要>

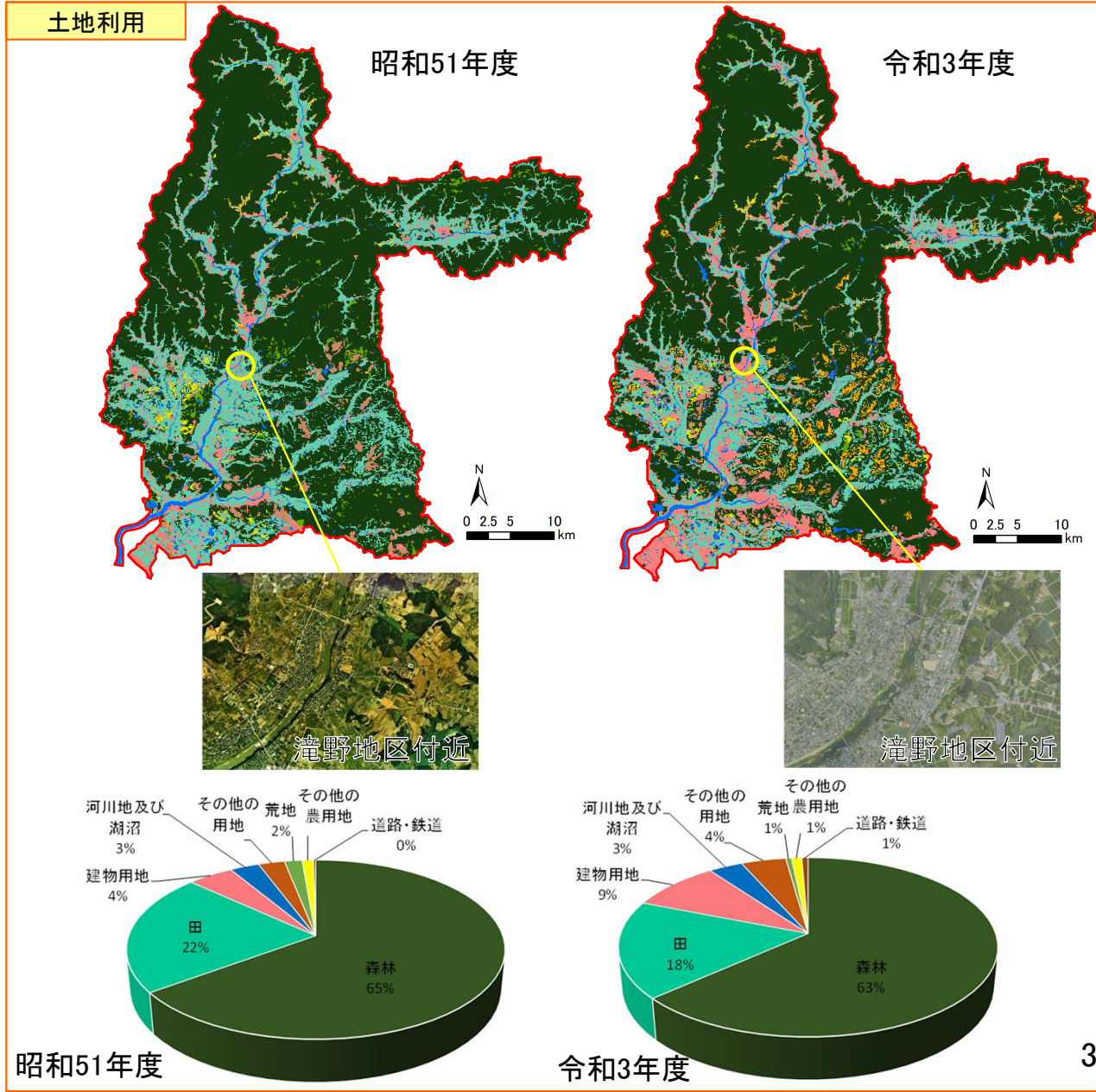
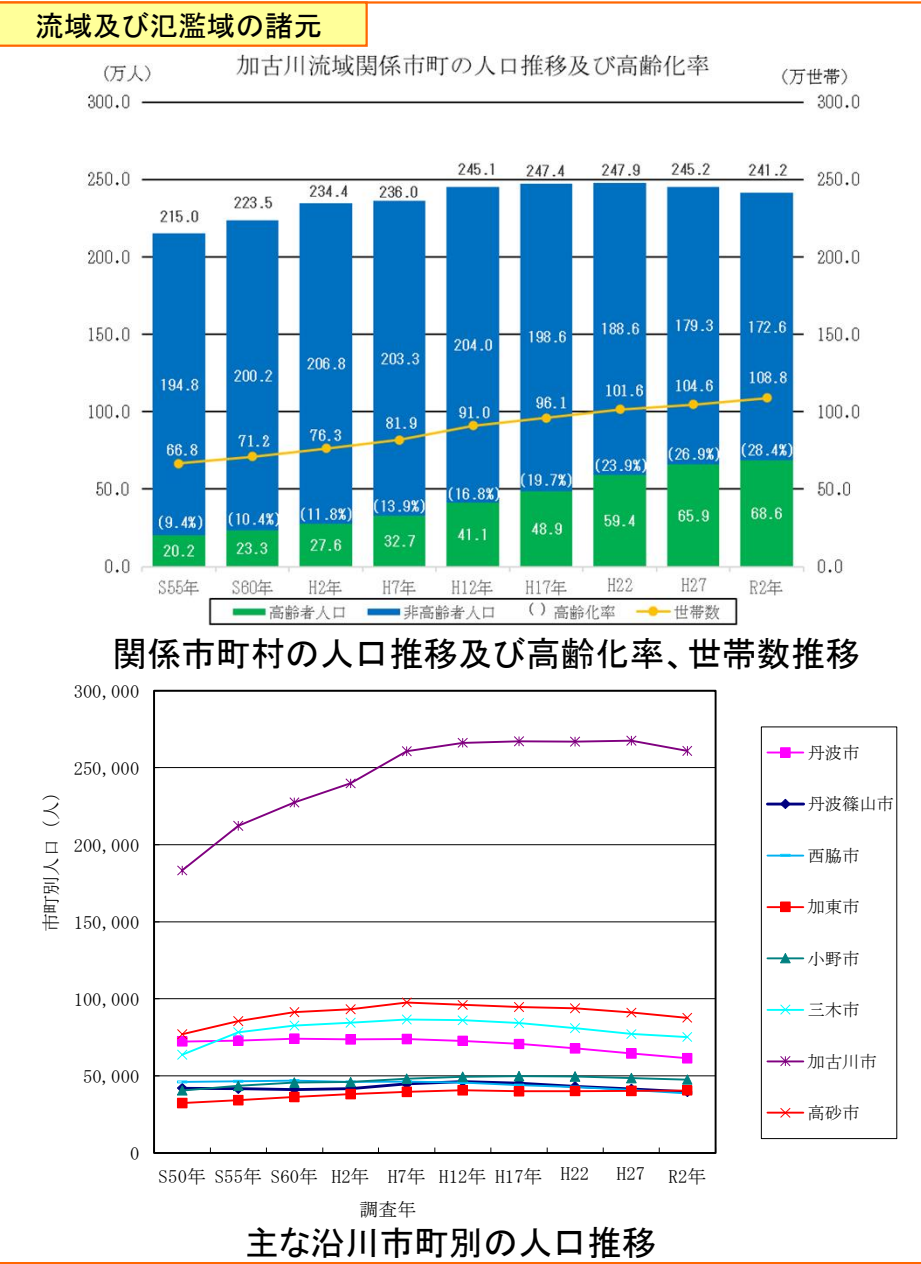
①流域の概要.....	【 P.2～P.5 】
・流域の人口・世帯、土地利用等の推移 ・加古川の水利用 ・河口部の干潟の保全と再生	
②基本高水のピーク流量の検討	
・特になし	
③計画高水流量の検討.....	【 P.6～P.10 】
・流域における貯留・遊水機能の確保の考え方、実現性	
④集水域・氾濫域における治水対策.....	【 P.11～P.14 】
・兵庫県総合治水条例、西脇市の取組 ・ため池の治水利用と管理	
⑤河川環境・河川利用についての検討.....	【 P.15～P.17 】
・生態系ネットワークの形成(ため池の活用)	
⑥総合土砂管理	
・特になし	
⑦流域治水の推進	
・特になし	

①流域の概要

○ 人口は、平成22年の約248万人を最多に令和2年は約241万人と微減傾向だが世帯数は約109万世帯と増加傾向。高齢者率は約28%と年々進行している。

○ 高度経済成長期に、臨海部が播磨工業地帯の東の拠点として発展し、これにより下流部で特に宅地化が進行し、人口・資産が急増した。

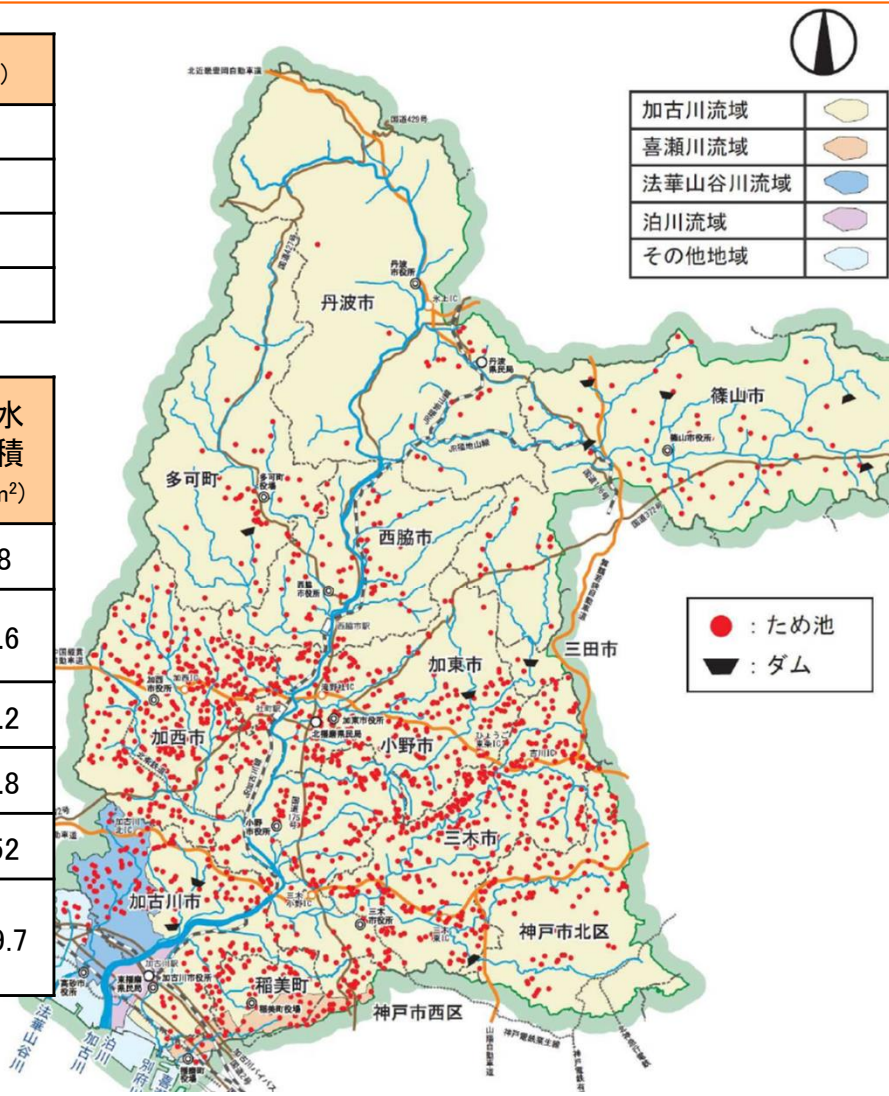
○ 昭和50年(1975年)の中国縦貫自動車道開通(兵庫県下)を契機に阪神圏との結びつきが強まり、中上流部で工業団地やゴルフ場、大規模保養施設等の開発が進んだ。



- 加古川流域では、大規模な水田開発により、各地でため池や用水路が作られ、台地上に流れている比較的小さな河川より非灌漑期に取水した用水を数多くのため池に導水・貯水し、灌漑期に配水するというシステムが発達した。現在でも流域内に約8,000箇所のため池が存在し、ため池の総貯水量は約73,000千m³と大きく、農業用水等を確保している。
- また、「国営農業水利事業」では平成5年までにダム等の農業水利施設(貯水量約49,000千m³)が建設され、現在も高度な水利用が図られている。
- 平成6年の渇水時には整備されたダムやため池等の水利施設により、営農への影響を抑えることができた。また、全国的に生じていた断水や時間給水は加古川では回避している。

ため池	所在地	貯水量(千m ³)
昭和池	加東市	1,502
加古大池	稲美町	1,300
船木池	小野市	926
流域内の全ため池		約73,000

利水ダム	所管	貯水量(千m ³)	集水面積(km ²)
糺屋ダム	近畿農政局	13,328	3.8
大川瀬ダム	近畿農政局	8,150	60.6
鴨川ダム	近畿農政局	8,380	19.2
吞吐ダム	近畿農政局	17,800	49.8
権現ダム	兵庫県	11,000	6.52
流域内の全利水ダム		約63,000 (うち、国営農業水利事業分約49,000)	369.7



■ 加古大池(加古郡稲美町)

- ・江戸時代前期(17世紀中期)築造
- ・兵庫県で一番面積が大きなため池
- ・満水面積49ha



出典: 兵庫県

■ 吞吐ダム



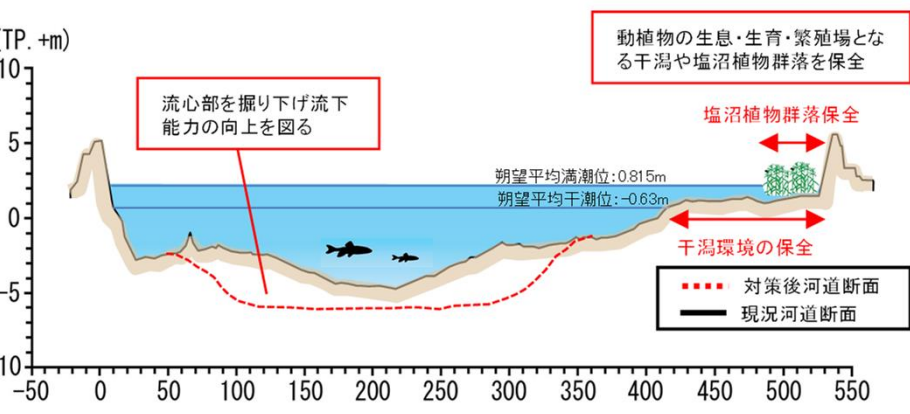
出典: 近畿農政局

▲ため池の分布
出典: 兵庫県GISデータ(平成27年2月現在)、総貯水量10,000m³以上を抽出

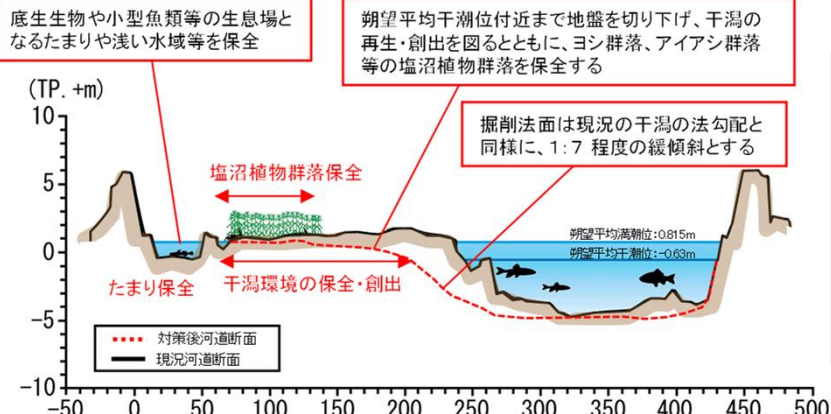
- 工業が盛んな播磨臨海地域をかかえる下流部では、上流部の河川整備に先行して河道掘削等により流下能力の増大が図られている。
- 河口部には干潟や塩沼植物群落等の貴重な河川環境が存在しており、朔望平均満潮位から朔望平均干潮位の間に陸地になる範囲を干潟と位置づけ、干潟を保全するとともに、干潟環境の保全・創出を行う。
- 0.6k付近は流心部だけを掘削することで流下能力を増やし、現況の干潟環境を保全する。
- 1.8k付近は掘削により流下能力を増やすとともに、朔望平均干潮位付近まで現況の地盤を切り下げ、干潟環境を保全・創出する。



【干潟環境の保全】(加古川 0.6k付近)

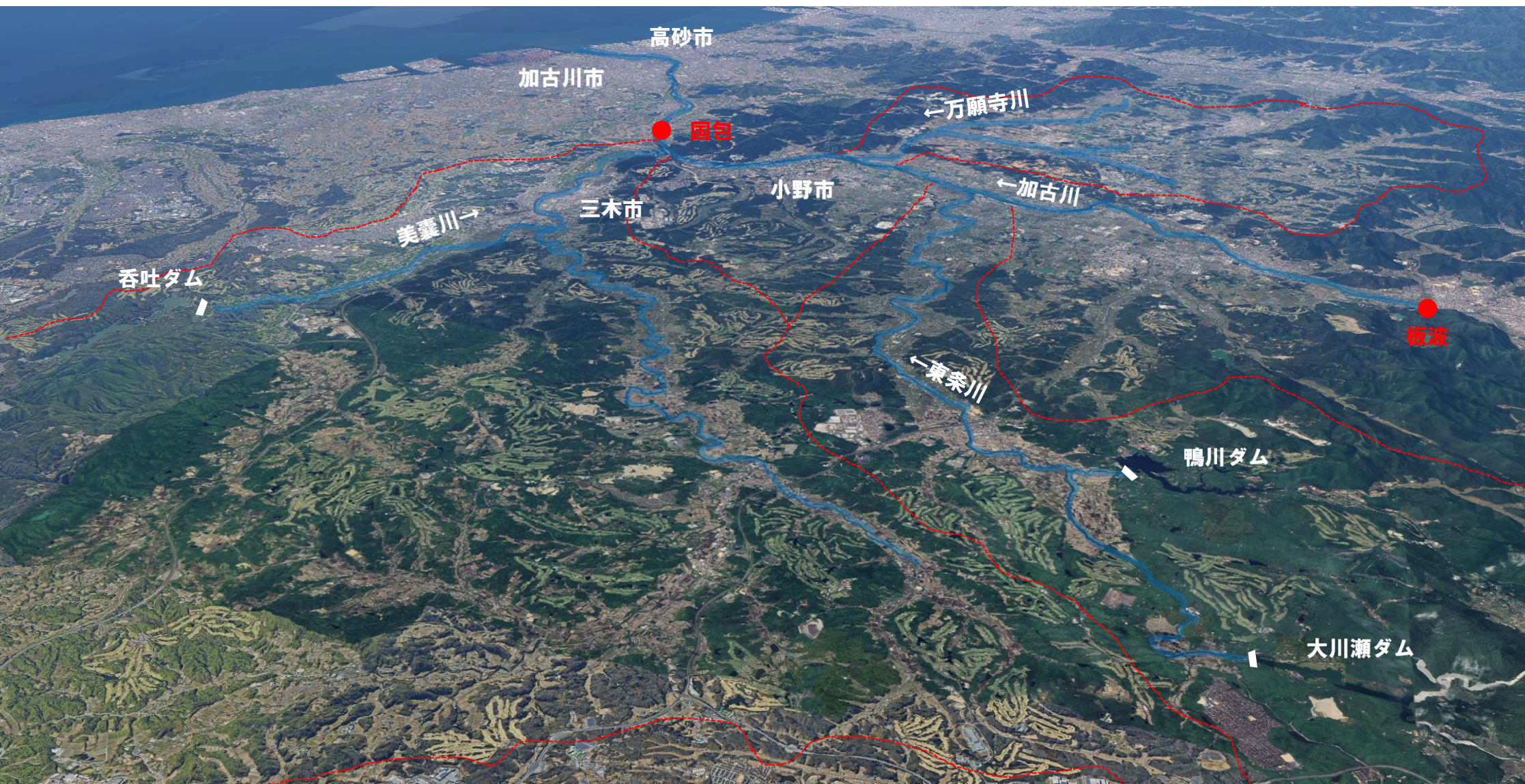


【干潟環境の保全・創出】(加古川 1.8k付近)



③計画高水流量の検討

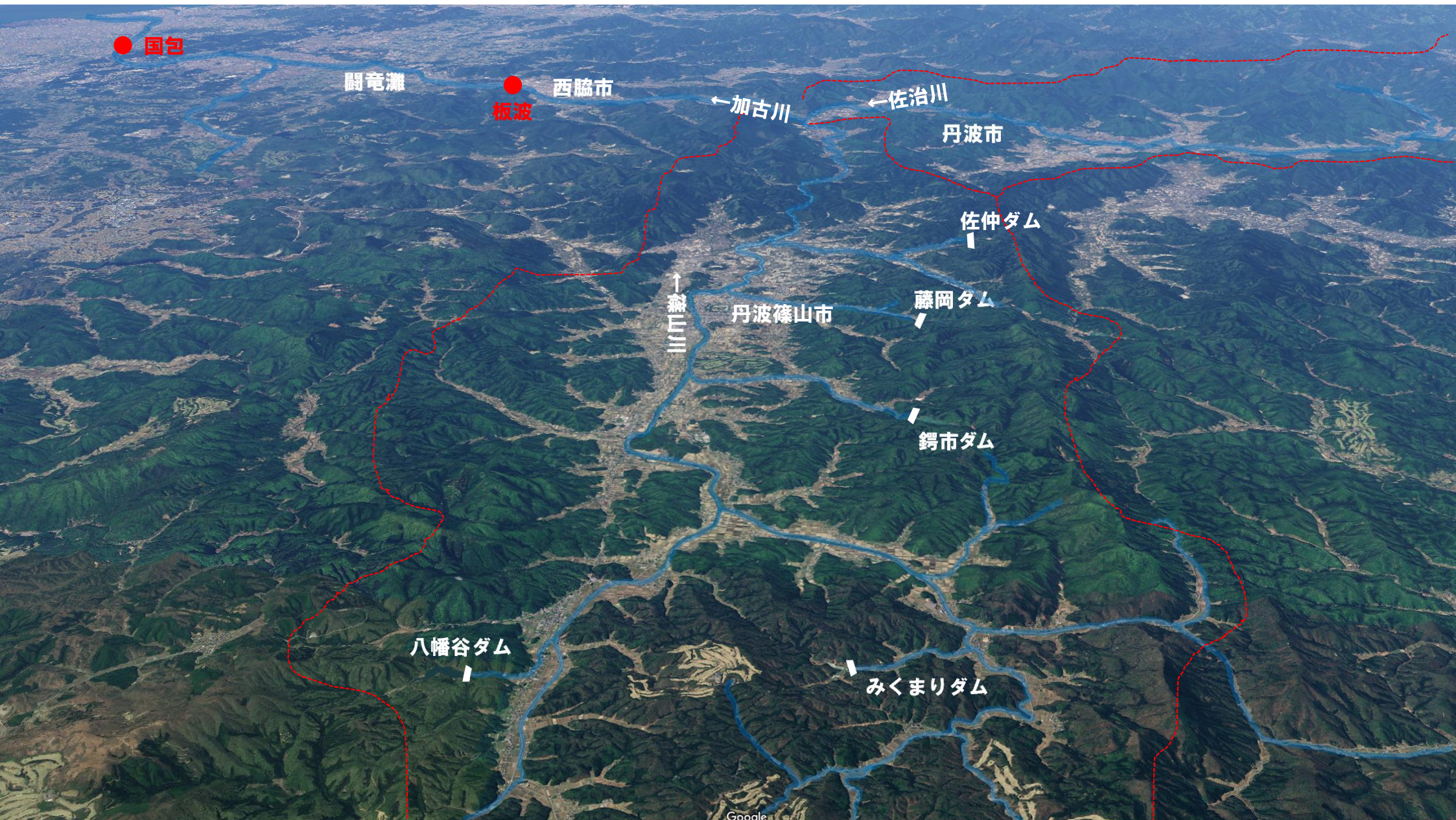
○ 流域治水の視点も踏まえて、既存ダムの有効活用や、流域内での貯留・遊水機能の確保を検討。(美囊川、東条川)



○ 流域治水の視点も踏まえて、既存ダムの有効活用や、流域内での貯留・遊水機能の確保を検討。(万願寺川)



○ 流域治水の視点も踏まえて、既存ダムの有効活用や、流域内での貯留・遊水機能の確保を検討。(本川上流)



④集水域・氾濫域における治水対策

兵庫県総合治水条例

-
- 河川下水道
対策
- 流域対策
- 減災対策

県の責務	総合治水に関する総合的・計画的な施策の策定・実施
市町の責務	各地域の特性を生かした施策の策定・実施
県民の責務	・雨水の流出抑制と浸水発生への備え ・行政が実施する総合治水に関する施策への協力

相互連携

-

- ① 地震対策のため池防災工事
- ② 豪雨災害を防止・軽減するための防災工事
(全面改修)
- ③ ため池の老朽化に伴い、人的被害を防止する
ための防災工事
- ④ 下流に人家等のあるため池の廃止工事



雨水がすべて河川・水路に流れ込む

発生 浸透ます 透水性舗装

河川・水路の水位が低下

A map of the study area in the city of Nagaoka. The map shows the city's layout, including roads, rivers, and various landmarks. Key locations marked include the Nagaoka City Office (Nagaoka City Hall), Nagaoka City Elementary School, and the Nagaoka City Office. The map also shows the city's boundaries and the location of the study area.

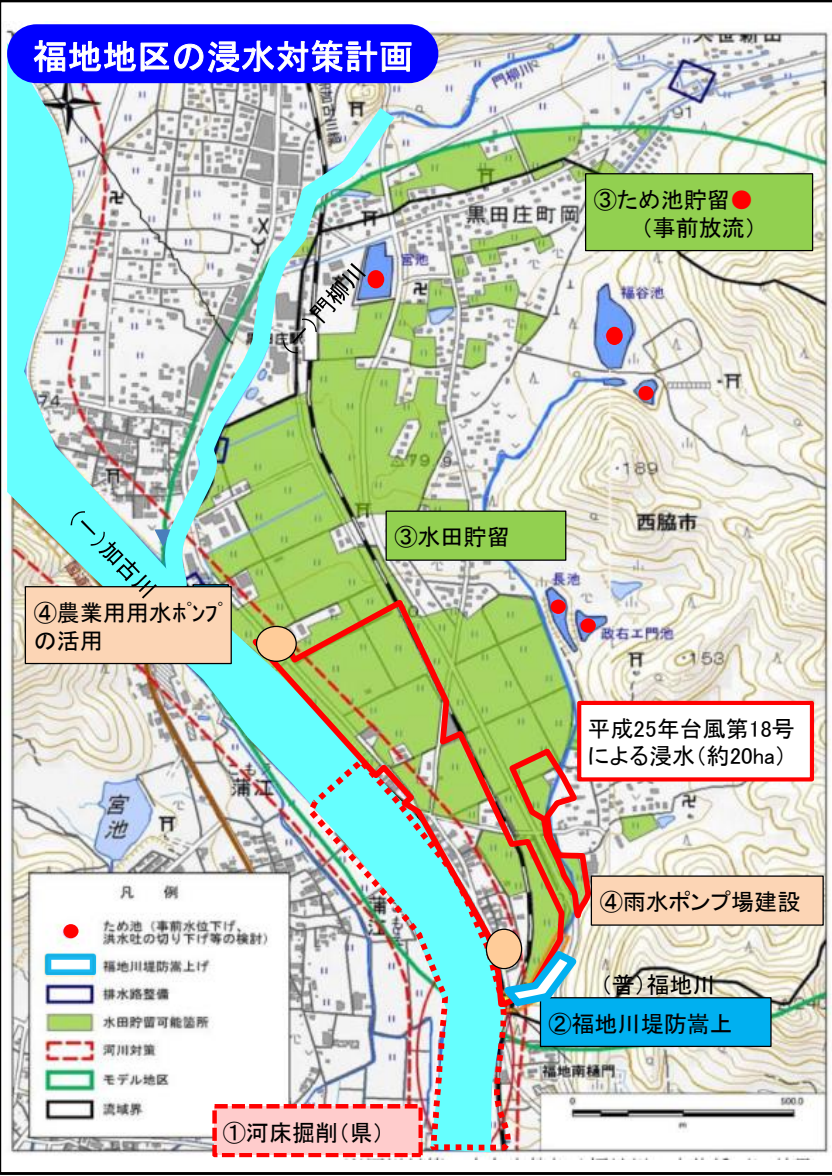
マ イ 避 難 カ ー ド	
災害の種類	名前 加東信の助
確認!	避難材料の入手 (大津波や台風の時に何を確認?) 防災行政無線、かどう安全ネット
いつ?	逃げ 時 (何がどうなったらず?) 警戒レベル4避難指示
どこに?	避難 先 (どこに?) 朝(朝6時10分) ミナクル 夜(朝10時) 自宅の2階 避難する 方法 (だれと?歩いて?車で?)
どのように?	朝(朝6時10分) 家族と歩いて 夜(朝10時) 自宅 近所の○○さんに声をかける

対策		内容	主体
河川下水道対策	河川対策	加古川本川において河床掘削等を実施する。	国
	排水ポンプ	内水排除のため排水ポンプの設置等を検討する。	加東市
流域対策	水田貯留	営農者の協力を得た上で、田んぼの落水口へのセキ板の設置による水田貯留に取り組むように普及活動を行う。	県、加東市、県民
	ため池の事前水位下げ	大谷奥池、大谷中池、大谷口池、オケ谷池において、大雨が予測される場合は、事前に水位を低下させ、雨水を貯留する容量確保について検討する。	県民(ため池管理者)、加東市
減災対策	避難方法の検討	マイ防災マップを活用し、避難方法を確認するとともに、地域で避難方法を共有する。	国、加東市、県民



凡 例	
	ため池（事前水位下げ）
	ため池（オフィスの改良）
	河川対策
	水田貯留可能箇所
	モデル地区
	流域界

- 平成25年台風第18号で約20haが浸水し、道路やJR線路の冠水の外、住宅では床上4戸、床下31戸の浸水被害が発生。
- 兵庫県の東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏)地域総合治水推進計画に基づき、県が加古川本川の河床掘削、西脇市が堤防嵩上げ(福地川)、雨水ポンプ場等の整備、施設管理者がため池事前放流、水田貯留、事前ゲート操作等に取り組んでいる。
- 平成30年7月豪雨による出水では、浸水被害のあった平成25年の台風第18号と同程度の雨量(24時間)であったが、宅地側の浸水を水田にとどめ、住宅の浸水を「ゼロ」とした。

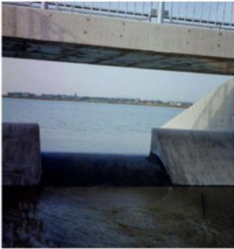


- 兵庫県ではため池の活用に必要な整備に助成する等、地域がため池を管理できるように支援を行っている。
- また、ため池や水路を地域の財産と位置づけ、各ため池や集落では施設管理者である農業者だけでなく、地域住民や多様な主体が参画する「ため池協議会」を組織し、それらを核とする地域づくりが進められている。
- 東播磨地域では、兵庫県と関係市町が「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」を創設し、ため池の深刻な問題に対して、ため池が持つ価値や可能性に着目し、その多面的な機能を享受する新たな広域的ネットワークを形成し、地域でのため池の永続的な保全に向けて支援を行っている。

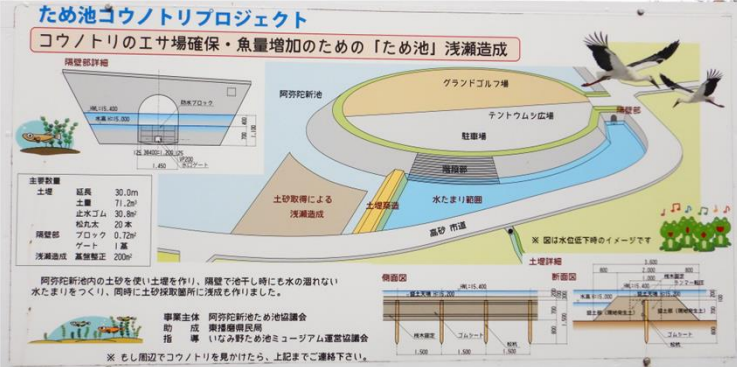
兵庫県の助成や運営協議会の取り組み

ハード整備への助成

ため池の洪水吐切り下げや浅瀬・ためり造成等への支援



加古大池(稲美町)
事前水位低下のための
洪水吐一部切り下げ



ため池ゴウノトリプロジェクト
コウノトリのエサ場確保・魚量増加のための「ため池」浅瀬造成

阿弥陀新池(高砂市) 浅瀬・ためり造成による環境対策

ため池管理・活用支援

「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」では、ため池協議会の活動支援や人材バンク、調査研究、普及啓発活動などを展開

<水辺地域の活動例>



田植え体験会



SUP体験会



野鳥観察会



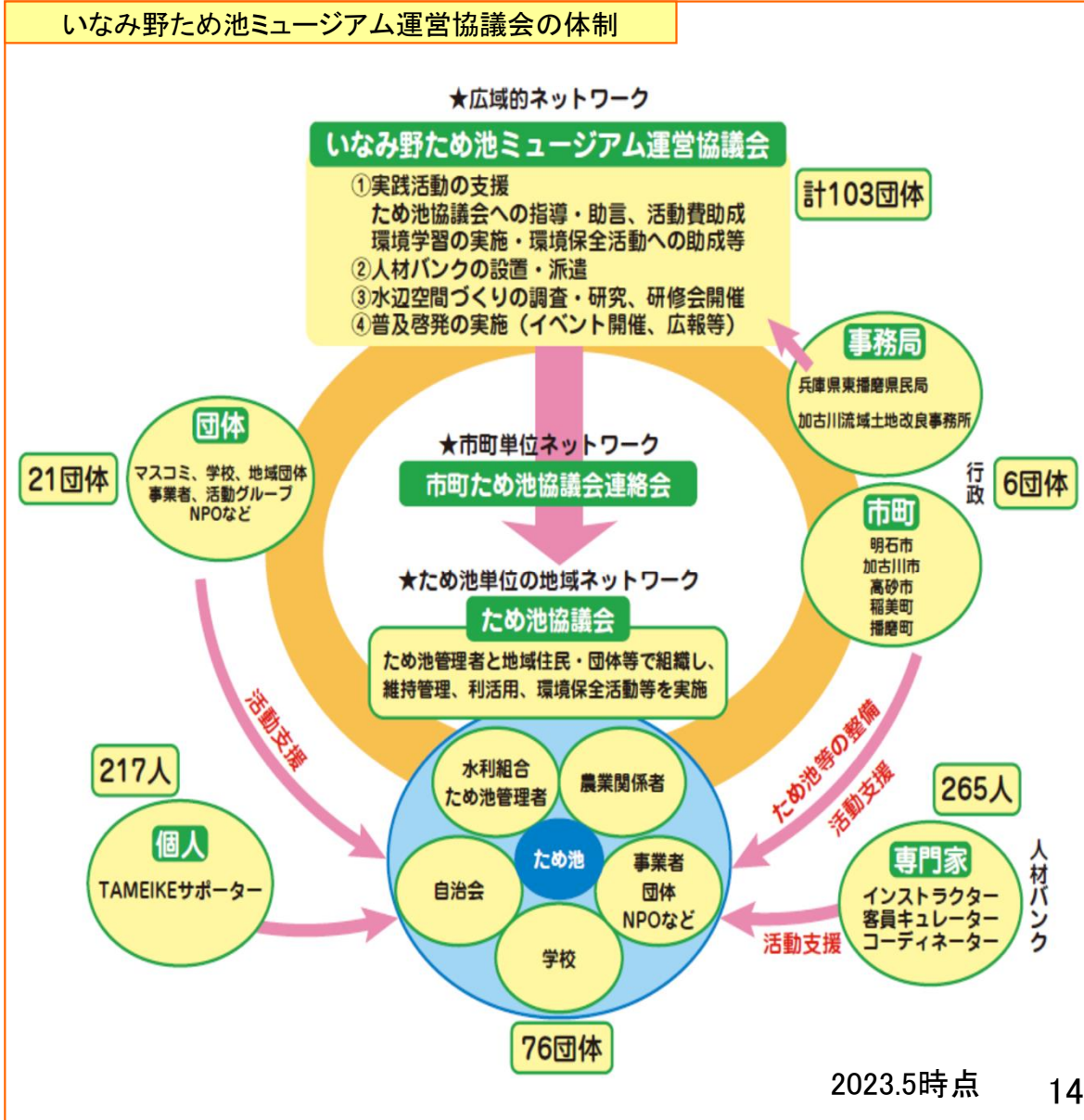
桜ウォーキング



オニバス観察会

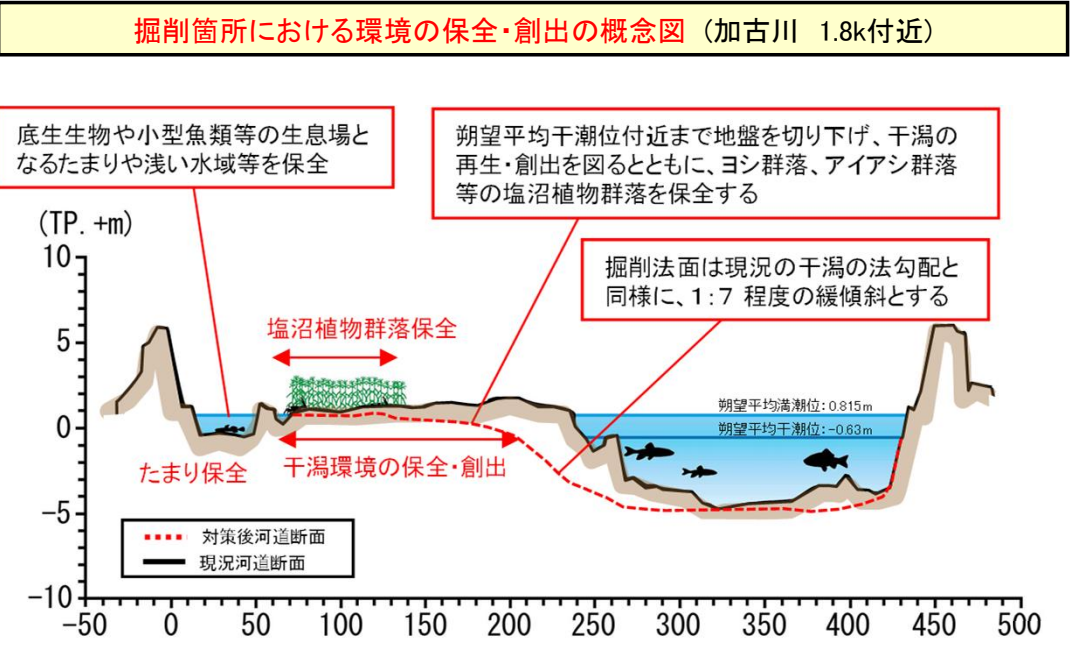
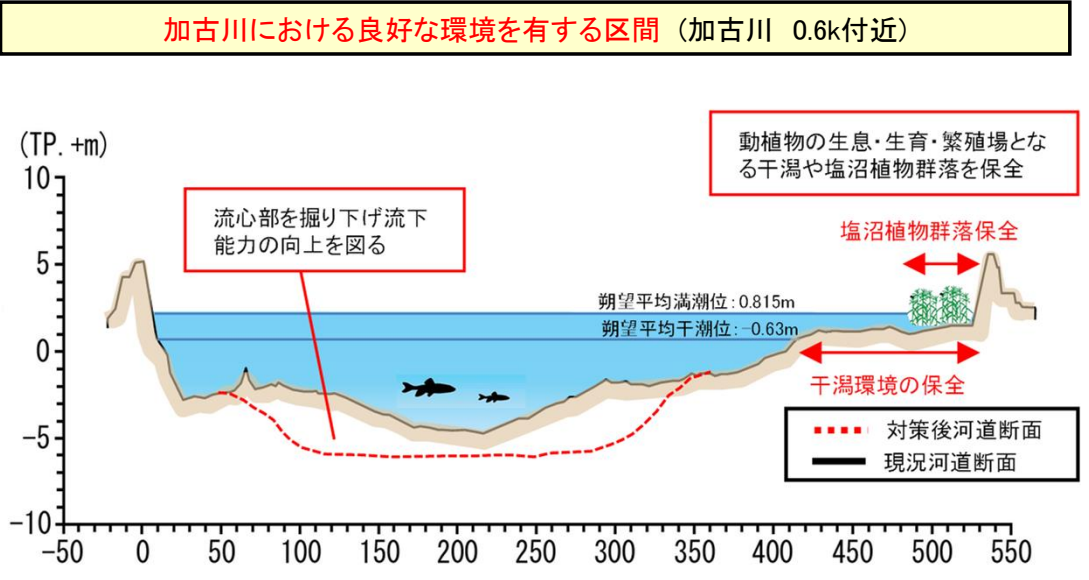
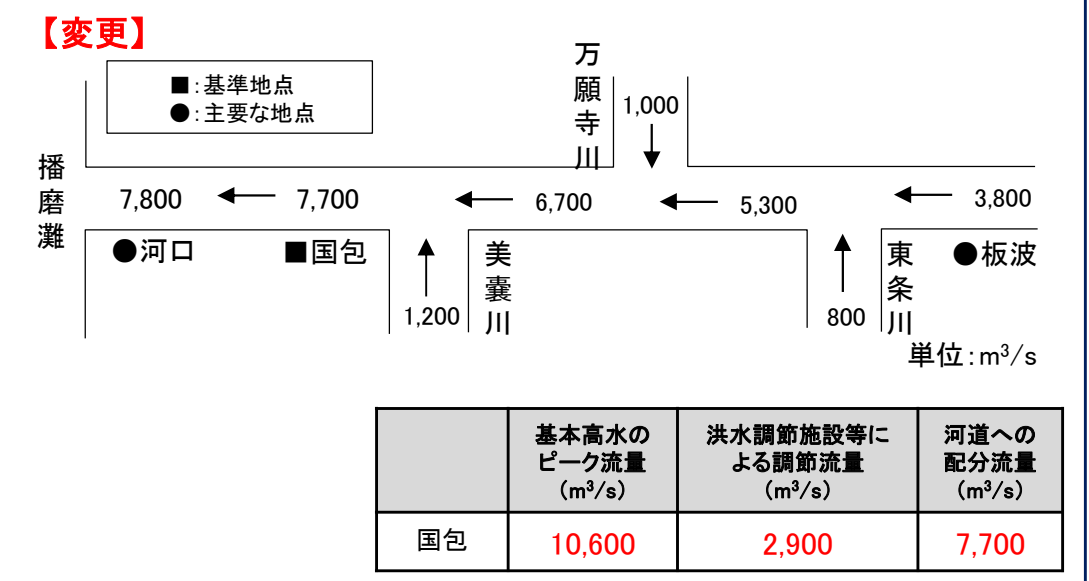
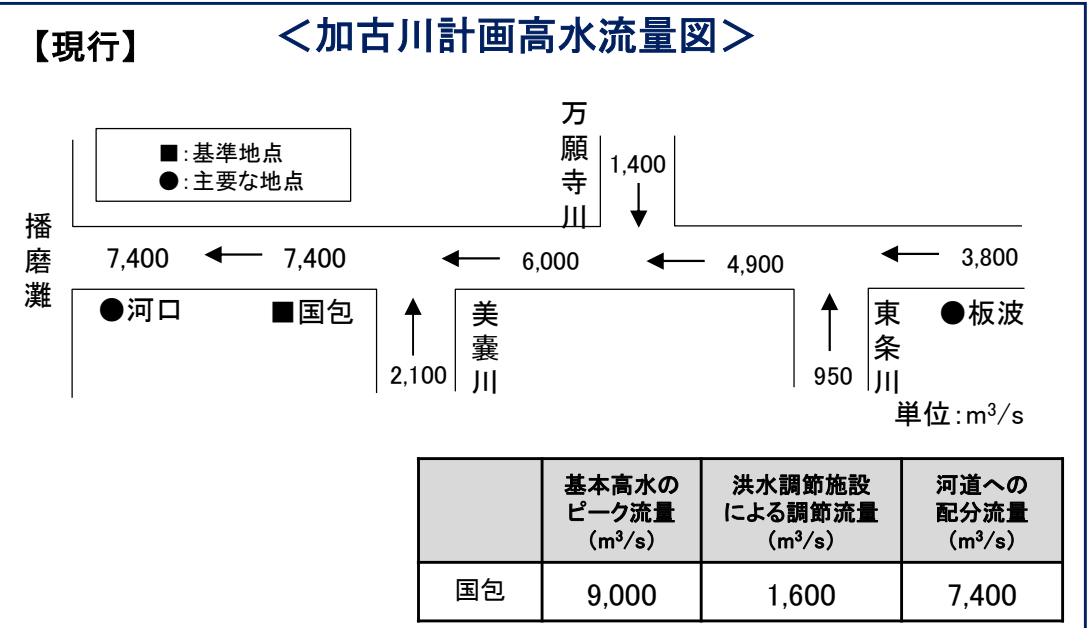


かいぼり(じゃことり)



⑤河川環境・河川利用についての検討

○ 河道掘削に際しては、同一河川内の良好な河川環境を有する区間の河道断面を参考に、魚類等の生息・生育・繁殖環境の保全・創出を図るため、上下流一律で画一的河道形状を避けるなどの工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。



- 17